

なし新品種「きらり」の着果管理技術

1. 試験のねらい

2007年2月に品種登録された本県育成品種なし「きらり」は、9月下旬から10月上旬に収穫でき、果実品質が優れた晩生品種である。適正な着果管理技術の指標を策定するため、予備摘果時期と着果量を明らかにする。

2. 試験方法

(1) 予備摘果時期の検討

2006年に高接ぎ5年生および7年生各1樹と苗木7年生1樹、計3樹（各樹4本主枝仕立て）を供試した。予備摘果を満開15日後に行った早期摘果、満開40日後に行った慣行摘果の2処理とし、 m^2 あたりの着果数を10果、12果の2処理区とした。各処理を1樹の主枝片側毎に行い3樹で3反復とした。仕上げ摘果は満開60日後、補正摘果は満開100日後に行った。

(2) 着果数の検討

2007年に高接ぎ6年生および8年生各1樹、計2樹（各樹4本主枝仕立て）を供試した。処理区は m^2 あたりの着果数を8果、12果、16果の3処理とし、各処理を1樹の主枝毎に行い2樹で2反復とした。予備摘果は満開40日後、仕上げ摘果は満開60日後、補正摘果を満開100日後に行った。

3. 試験結果および考察

(1) 予備摘果の時期

1) 平均果重は早期摘果が慣行摘果より重くなり、 $10 \text{ 果}/m^2$ が $12 \text{ 果}/m^2$ より重くなった。糖度は全ての区で12%程度となり、早期摘果により果重はやや重くなったが、糖度に差はみられなかった。その他の果実品質には差はなかった（表-1）。

2) 収量は着果数が多いほど多くなった。慣行摘果の $12 \text{ 個}/m^2$ 処理区で落果率が低くなった。また、きらりは幼果期に果形が乱れたため、実止まり後、早期に果形を確認することは困難と考えられた（表-1）。

以上のことから、予備摘果時期は、果形を確認でき、落果率が低くなる満開40日後に行うのがよい。

(2) 着果数の検討

1) 果重は着果数が少ないほど重くなった。糖度は $8 \text{ 果}/m^2$ で12%を超え、 $12 \text{ 果}/m^2$ 、 $16 \text{ 果}/m^2$ では12%未満となった。その他の果実品質に差はなかった。また、着果数が多いほど落果率が高くなった（表-2）。

2) 果重別の果実品質では、450g未満の果実で糖度12%を下回り食味不良となった（表-3）。

3) 着果数が多いほど収量は多くなったが、低糖度となる果重450g未満の果実の発生割合が高くなった（表-2、図-1）。

以上のことから、きらりの着果数は、果実品質が優れ、食味不良な450g未満の果実の発生割合が低く、落果率が小さい $8 \text{ 果}/m^2$ が適している。

4. 成果の要約

なし新品種「きらり」の予備摘果時期は、果形を確認でき、落果率が低くなる満開40日後に行う。 m^2 あたりの着果数は、果実品質が優れ、食味不良な450g未満の果実の発生割合が低く、落果率が小さい8果が適している。

（担当者 園芸技術部 果樹研究室 竹澤 雅子）

表 - 1 なし「きらり」の予備摘果時期、着果数と果実品質および収量、落果率

処理区		着果数 果/m ²	果重 g	糖度 B r i x %	酸度 pH	硬度 lbs	収量 kg/m ²	落果率 ¹⁾ %
予備摘果 時期								
早期	10	618	12.0	4.8	4.6	5.3	14.6	
早期	12	577	12.2	4.8	4.5	6.5	8.3	
慣行	10	580	11.9	4.9	4.5	5.1	11.4	
慣行	12	544	12.4	4.7	4.4	6.5	3.8	
早期			597	12.1	4.8	4.6	5.9	11.5
慣行			562	12.1	4.8	4.4	5.8	7.6
	10	599	12.0	4.8	4.5	5.2	13.0	
	12	561	12.3	4.8	4.5	6.5	6.1	

注1. (補正摘果後の着果数 - 収穫果数) / 補正摘果後の着果数 * 100

表 - 2 なし「きらり」の着果数と果実品質および収量、落果率

処理区	着果数 g	地色 カラーチャート値	糖度 B r i x %	酸度 pH	硬度 lbs	収量 kg/m ²	落果率 ¹⁾ %
8果/m ²	613	4.0	12.5	4.9	4.4	5.0	0.2
12果/m ²	601	4.1	11.6	4.9	4.4	6.9	4.3
16果/m ²	565	4.1	11.9	4.9	4.5	8.4	7.4

注1. (補正摘果後の着果数 - 収穫果数) / 補正摘果後の着果数 * 100

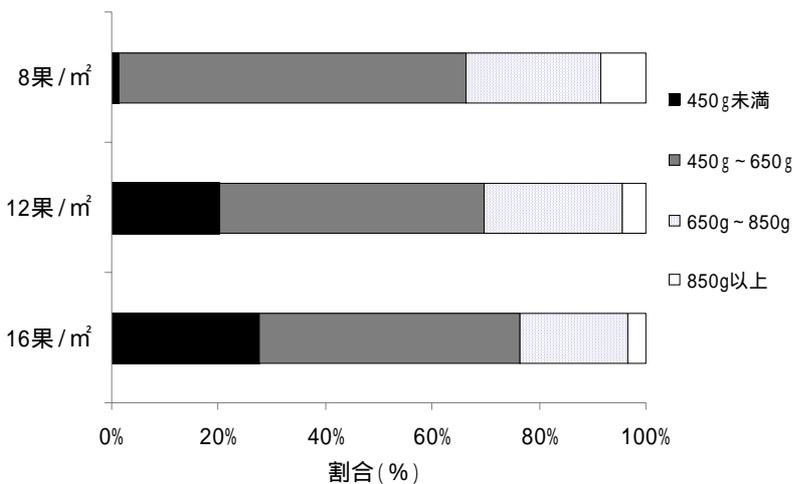


図-1 なし「きらり」の着果数と収穫果の果重別発生割合

表 - 3 果重別果実品質

果重 g	糖度 B r i x %
450未満	11.9
450~650	12.4
650~850	12.6
850以上	12.7

注. 糖度は収穫した全果実をクボタ社製フルーツセレクターK-BA100Rで測定し、
 回帰式 ($y=0.886x + 1.128$ $r^2=0.635$) に
 基づき糖度を算出した。